



木曾といえは御嶽山

「木曾署」

御嶽山は、長野県の西端と岐阜県の東部にまたがる独立峰であり、木曾町開田から見る姿は南北に長く美しい裾野を見せる台形で、王滝村滝越白川や濁川付近からの眺めは、剣ヶ峰から継母岳を中心とした荒々しい火山岩の露出した急傾斜の姿となっています。

信州側は、古くから信仰の山として登拝が盛んで、木曾町や王滝村から御嶽山に登る登山道の両側には、たくさんのお霊神碑があります。

木曾側の開山は、一三〇〇年前に修験者により行われたとされています。

現在では、三岳村鹿瀬温泉上部からの御岳ロープウェイや王滝口田の原までの自動車道で二、一五〇メートル以上まで行けることから日帰りの登山も楽しめるコースもあり、年間入り込み者は、約十四万人となっています。

山頂部は、東西約一キロメートル、南北約四キロメートルに及ぶ。

嶺の南北に長い活火山で最高地点は三、〇六七メートルです。

近年の噴火は、一九七九年で、降灰は前橋市まで及んだ記録があり、今でも王滝側地獄谷には、常時、噴気が上がり、吹き出す音と共に壮絶な景色が広がっています。

また、一九八四年九月十四日には、御嶽山南麓を震源とするM6.8の西部地震が発生し、これに伴う山麓の大崩壊や多くの土砂崩れ等により二十九名の死者、行方不明者のほか、家屋、公共土木施設、森林資源の被害等は甚大なものとなり、この復旧に当時の長野営林局他各機関が総力を挙げて取り組んだことも当時を知る人には、記憶に強く残っているところです。

今年の高山植物保護パトロールに参加した折、昔の噴火口といわれる跡（火口湖や火口原）を撮影することが出来たので紹介します。

火口跡とされているのは、池の名の付く六つの凹地（一ノ池から六ノ池まで）と一カ所の平原（賽ノ河原）です。

◆アクセス

登山口は王滝口、黒沢口、小坂口、日和田口などがありますが、長野県側について参考コースを示します。

- 一 王滝口 JR中央線木曾福島駅からバス（季節便）一時間一五分で田の原（二一八〇メートル）に到着、徒歩二時

間〇五分で九合目の石室避難小屋四〇分で王滝頂上、更に二五分で剣ヶ峰の頂上です。

二 黒沢口 JR中央線木曾福島駅からバス（季節便）一時間で御岳ロープウェイ鹿瀬駅へ到着、徒歩一時間二〇分で覚明堂、横手道十字路を経て三十五分で剣ヶ峰の頂上です。



開田高原より望む御嶽山



山頂左剣ヶ峰と中腹の火口跡と平原賽の河原（火口原）



三ノ池 神聖な水とされる



継子岳と中央右に五ノ池・五ノ池小屋